

第50回 まちづくり研究セミナー

JIA建築展 vol.21 ・日韓合同学生ワークショップ

「あなたの街と祭」

報 告 書



2020.1

公益社団法人 日本建築家協会 九州支部 北福岡地域会

主催者挨拶

平素より、弊会の活動に御理解と御協力を賜り、御礼申し上げます。

JIA北福岡地域会が、1999年より、継続開催してきた建築展が、今年は21回目を迎えました。毎年、試行錯誤しながら、常に新しい試みを続けて来ました。今年の建築展の大きな特徴は、これまでのワークショップ形式での開催から、設計コンペ形式での開催に変更した事です。これまでも協議された事のある方式でしたが、昨今の建築業界を取り巻く環境等も鑑み、内容と同時に、少しプレゼンテーション能力のスキルアップも大切なのではないかと、の想いもあり、初めて挑戦させていただきました。

又、今年は、日韓関係の悪化が大きな影を落としました。九州内でも、各地で継続開催して来た様々な事業が軒並み中止に追い込まれる中、我々の事業も当初はかなり厳しい船出となりました。しかし、募集中盤に勇士で韓国へ伺い、釜山の先生方とも直接会って対話をし、旧交を深め、このような困難な状況にも関わらず、今年も例年並みの学生を連れて来日、参加いただきました。

これも一重に、これまでの歴史を積み上げていただいた、日韓の行政、大学、そして諸先輩会員の皆様の御蔭でございます。

そのような経緯もあり、例年、ワークショップ終了後は、特に日本の案内等を行って来ませんでしたが、我々が皆さんを大切な仲間であると思っている事を伝えたい。我々の国の建築や文化を学校の教育やメディア等で歪められた物ではなく、直接見て感じて欲しいとの想いから、翌日、外国人のみを対象に日本再発見のツアーを企画し、1日共に過ごして楽しんでもらいました。

そして、今年のもう一つの大きな特徴は、参加学生の多国籍化です。年々日韓以外の国籍を持つ学生の参加の増加を感じていましたが、今年は、6カ国38人と、ほぼ半数を占めるようになり、日本の学生にも、同世代の仲間が広く世界に存在する事を肌で知り、レベルの高さを感じる事のできる素晴らしい場に育っていると感じました。

今年は、高濱実行委員長、古森・金子両副実行委員長をはじめ、多くの実行委員の皆さんに、企画、運営をしていただき、下記の3つの事業で構成されています。

- ・日韓合同学生設計コンペ
- ・セミナー
- ・DISCOVER JAPAN ツアー
- ・パネル展

ピンチをチャンスとしてとらえ、より強固な関係を築く事ができた今年の建築展、来年はオリンピック、パラリンピックも開催され、より大きなウネリの中で開催されます。今後も皆様の御理解と御協力をいただき、この建築展が益々発展、意義のある物となり、社会に貢献できる物に育てていきたいと思っています。

公益社団法人 日本建築家協会 九州支部 北福岡地域会
地域会長 松島 逸人

< 建築展21・日韓合同学生設計コンペ >

■ 主催・共催

- ◇ 主催 まちづくり研究セミナー事務局
公益社団法人 日本建築家協会 九州支部 北福岡地域会
- ◇ 共催 北九州市

■ 開催目的

北九州市とその周辺の建築家で構成されている北福岡地域会では、建築・まちづくりを通して社会貢献する活動の一環として、北九州周辺地域の大学と「建築文化及び友好・交流についての協定」を結んでいる韓国の大学との日韓合同学生ワークショップを毎年開催しています。

講師によるセミナーの開催や様々な地域にある建築的課題に取り組んで作り上げる課題作品(設計コンペ)を通じて、日韓の建築文化の違いを肌で感じてもらいながら、国際感覚を持った次世代を担う建築家の育成や、建築文化の創造・発展に貢献する事を目的としています。

JIA 九州支部 北福岡地域会 建築展実行委員会

■ 期間 2019年10月26日(土曜日)・27日(日曜日)

2019年12月6日(金曜日)～8日(日曜日)

※パネル展のみ後日開催

- ### ■ 会場
- 日韓合同学生設計コンペ : 赤煉瓦倶楽部(福岡県北九州市門司区大里本町三丁目11-1)
 - セミナー : 同上
 - DISCOVER JAPAN ツアー : 岩国錦帯橋～宮島厳島神社～広島平和記念館
 - パネル展 : 黒崎ギャラリー(福岡県北九州市八幡西区黒崎三丁目15-3)

■ 講師



百田有希

一級建築士事務所 大西麻貴+百田有希/o+h

JIA2018年新人賞受賞

受賞作 : Good Job Center KASHIBA(奈良県香芝市)

■ 参加者 □ ワークショップ参加大学(発表順)

釜山大学(Aチーム):5人

釜山大学(Bチーム):6人

九州工業大学:5人

北九州市立大学(Aチーム):4人

九州産業大学(Aチーム):4人

九州産業大学(Bチーム):4人

北九州市立大学(Bチーム):4人(内留学生 中国4人)

近畿大学(Aチーム):4人

近畿大学(Bチーム):4人

日本文理大学(Aチーム):5人

日本文理大学(Bチーム):5人(内留学生 中国1人)

北九州市立大学(Cチーム):4人(内留学生 中国4人)

北九州市立大学(Dチーム):3人(内留学生 中国2人+スーダン1人)

北九州市立大学(Eチーム):4人(内留学生 中国1人+台湾1人+インドネシア2人)

東西大学:6人

東亜大学:5人(発表無)

※8大学16チーム72人(日本:5大学12チーム50人、韓国:3大学4チーム22人)

□ 大学教授



尾道 建二
元九州共立大学
WSアドバイザー



岩下 陽一
元九州職業能力開発大学校
WSアドバイザー



佐久間 治
九州工業大学
JIA北福岡地域会会員



福田 展淳
北九州市立大学
JIA北福岡地域会会員



益田 信也
近畿大学



菅 雅幸
日本文理大学



近藤 正一
日本文理大学



Yoo Jae Woo
釜山大学



Oh Kie Whan
東西大学



Cha Youn Suk
東亜大学

■ 参加数	延べ人数	408名
	10月26日(土曜日)	104名(日韓合同設計コンペ) 104名(セミナー)
	10月27日(日曜日)	48名
	12月6日(金曜日)	29名(入館者数のみ)
	12月7日(土曜日)	62名(入館者数のみ)
	12月8日(日曜日)	61名(入館者数のみ)

■ 実行委員 (地域会長) 松島 逸人
 (副会長) 杉野 友紀
 戸村 一樹
 (幹事) 三迫 靖史
 永澤 正哉
 塩釜 直人
 佐久間 治
 (相談役) 服巻 良樹
 熊谷平一郎

(実行委員長) 高濱 和久
 (副実行委員長) 古森 弘一
 金子 英造
 (実行委員) 浅田 典生
 安東 崇夫
 小原 光晴
 加藤 史衛
 後藤 友哉
 松岡 伸二
 満井 輝吉

第 51 回まちづくり研究セミナー

J I A 北福岡地域会 建築展 2 1



— 概要 —

本年度は、アイデアコンペ並びに J I A 新人賞受賞者 (o+h 百田有希) によるセミナーを開催いたします。

【開催日時】 2019年10月26日(土) 9:30~17:30

【開催場所】 門司赤煉瓦交流館(門司赤煉瓦ブレイス) 福岡県北九州市門司区大里本町3丁目11-1



【講師プロフィール】

百田有希 (o+h 共同主宰)
 1982 兵庫県生まれ
 2006 京都大学工学部建築学科卒業
 2008 同大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了
 2008 - 大西麻貴+百田有希 / o+h 共同主宰
 2009-14 伊東豊雄建築設計事務所勤務
 2017- 横浜国立大学非常勤講師



主催 公益社団法人 日本建築家協会
 九州支部 北福岡地域会
 共催 北九州市

■ 日韓合同学生コンペ 事前協議

日 時 2019年10月4日(金曜日)・5日(土曜日)

会 場 韓国釜山市内 東亜大学他

参 加 数 ユ先生(釜山大学)、チャ先生、リー先生(東亜大学)、オ先生(東西大学)、ホン先生(新羅大学)

永澤、杉野、塩釜、松島

内 容 昨今の日韓の政治情勢から、北福岡地域会の建築展の開催も危ぶまれた。他団体等の類似行事軒並み中止に追い込まれる中、一筋の光を求めて、韓国の釜山を訪問し、このような中でも我々は韓国の皆さんの参加を心から歓迎する旨を直接伝えに行きました。

報道では、とても大変な状況が想像されたが、現地では、大きなトラブルや、不快な思いをする事もなく、先生方とも、共に食事をしながら、直接話をする機会を持たた。

最初は、お互いに少し距離を感じるものであったが、直ぐに例年のような近い距離感でお互い意見交換をする事ができた。このよな中での訪問でもあり、いつも以上に大変歓迎いただき、益々信頼関係を築く事ができたと思います。

先生かたが、これまでのワークショップを高く評価してくれている事も伺い、同時に今年の問題点や韓国の先生方の希望等も色々伺えた。

結果、これまで今年の参加を躊躇っていた釜山の大学も、このような中でも、例年並みの参加をしてくれる返事をいただいた。

又、我々もそのような中での来日に応えるべく、例年行っていない終了後の日本建築、日本文化を案内するツアーを企画する事を提案、約束して帰国した。

帰国後は、それまでの滞り気味だった運営がスムーズに進みだした。



■ 開会式・日韓合同学生コンペ予選

日 時 2019年10月26日(土曜日) 13:30～15:30

会 場 門司赤煉瓦倶楽部

参 加 数 百田有希(講師)、アンさん(通訳)、日韓の大学教授、北九州市職員、
JIA会員(北福岡地域会、鹿児島地域会)
大学生:8大学16チーム72人(日本:5大学12チーム50人、韓国:3大学4チーム22人)

概 要 8大学、16チームの参加者が、審査員である百田先生、JIA会員達に自分達の案をプレゼンテーションを行った。説明の後、質疑・応答が展開された。







■ 予選審査

日 時 2019年10月26日(土曜日) 15:30～15:45

場 所 門司赤煉瓦倶楽部

参 加 者 百田有希(講師)、尾道先生、岩下先生、北九州市職員、JIA会員

概 要 予選で発表いただいた8大学、16チームの作品を、本戦に進む5チームに絞る作業が行われた。会員も、各自採点を付けているので、自分達の意見を発表。審査委員長である百田先生から、それぞれの案についてのコメントをいただき、第一線で活躍する建築家の見るポイントや考え方を学ばせていただく。審査の結果、下記の5チームが本線進出に決まった。

- ・釜山大学(Aチーム)
- ・釜山大学(Bチーム)
- ・九州工業大学
- ・九州産業大学(Bチーム)
- ・東西大学

最後の1枠は接戦であった。



■ セミナー

日 時 2019年10月26日(土曜日) 15:45~16:45

場 所 門司赤煉瓦倶楽部

参 加 者 日韓合同学生設計コンペに同じ

概 要 講師である、百田有希さんに、講演を行っていただいた。
講演タイトルは、「人を愛する建築」です。
最新作や受賞作品等を紹介、ポイント等を説明していただきながら、建築の考え方や、その深度、造る上で大切にしている事等をお話ししていただいた。
講演は、通訳を交え、外国人学生にも理解してもらえるように運営をした。



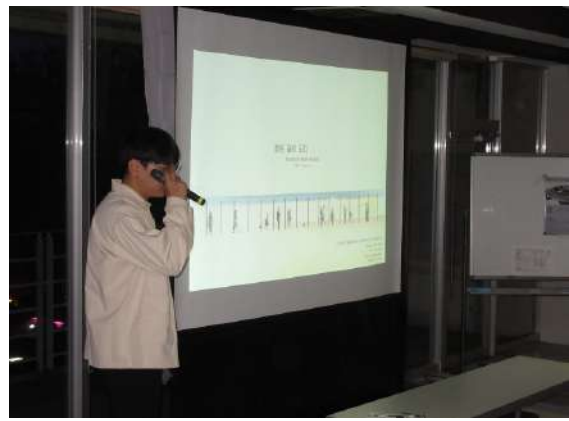
■ 日韓合同学生コンペ本線

日 時 2019年10月26日(土曜日) 17:00~18:30

会 場 門司赤煉瓦倶楽部

参加数 日韓合同学生設計コンペに同じ

概 要 予選を通過した5チームに、最終プレゼンテーションを行っていただいた。実社会でのコンペやプロポーザルさながらの熱の籠った発表会であった。通訳も交えながら、百田先生たちからのやさしくも厳しい質疑にも悪戦苦闘しながらの発表は大きな経験であり、財産になったと思う。又、聞く学生も、普段の学校仲間とは違う意見や成果を見る良い機会になったと思う。





各チームの発表の後、百田先生、尾道先生、岩下先生より講評をいただいた。



■ 日韓合同学生設計コンペ 表彰式・閉会式

日 時 2019年10月26日(土曜日) 18:45 ~ 19:00

会 場 門司赤煉瓦倶楽部

参 加 数 日韓合同学生設計コンペに同じ

概 要 審査委員長の百田先生より、審査結果の発表と、総括をしていただいた。
受賞結果は以下の通りです。皆さんおめでとうございます。

- ・最優秀賞:釜山大学(Aチーム)
- ・優 秀 賞:九州工業大学
- ・佳 作:釜山大学(Bチーム)、九州産業大学(Bチーム)、東西大





■ 日韓合同学生設計コンペ 交流会

日 時 2019年10月26日(土曜日) 19:00 ~ 20:00

会 場 門司赤煉瓦倶楽部

参 加 数 日韓合同学生設計コンペに同じ

概 要 製作期間も含め約2か月のお互いの健闘を称えあって終了した。
日韓のみならず、多くの国の出身の若い学生が一同に集まり、同じ課題に向き合って真摯に取り組むこの事業の良さを再認識する機会でもあった。
参加いただいた先生方、生徒さん方、お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。





皆さんお疲れ様でした

■ DISCOVER JAPAN ツアー

日 時 2019年10月27日(日曜日) 19:00 ~ 20:30

場 所 小倉駅(福岡県北九州市小倉北区)→錦帯橋(山口県岩国市)→宮島厳島神社(広島県廿日市市
昼食(お好み役)→広島平和記念資料館(広島県広島市中区)→小倉

参加数 48名 (外国人参加者44人 JIA会員4人)

概 要 例年、建築展に参加するために来日していただき、終了と同時に解散してしまう事について、心苦しい思いも持っていました。そんな中、今年は、大変厳しい政治情勢の中参加いただいた外国人学生に、母国で伝えられている物とは異なるのである、本当の我々日本人が愛する建築や風景、文化に少しでも体験して感じてもらえる物を持って帰ってもらいたいと願い、初めて企画させていただきました。

当日は、通訳も無、我々の本当に拙い英語のみを頼りに、秋の行楽シーズンで賑わう広島を目指しました。

バスを貸し切ったの行動でしたが、途中船での移動や、団体での食事等、困難も多数ありましたが日本の古くから伝わる木の文化、海に浮かぶ神社、そして、名物お好み焼きを一緒に食し、最後は、我々の避けては通れない歴史である広島原爆ドームを見ていただき、我々の先祖が体験した歴史を見てもらい、そんな我々は決して争いを望んでいない事、平和の大切さを感じて、それぞれの国に帰ってもらいました。

最後、参加者から多くの感謝と喜びの声をいただき、大変嬉しい1日になりました。





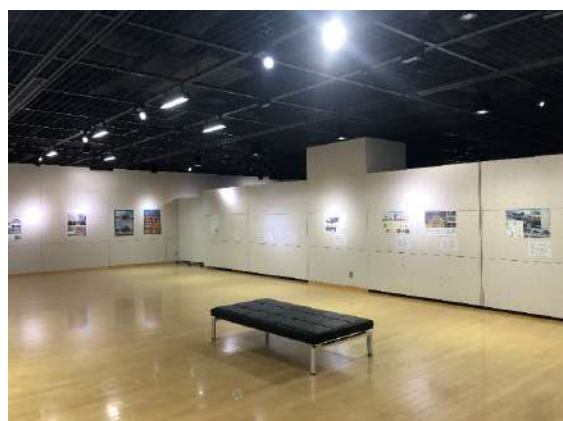
■ パネル展

日 時 2019年12月6日(金曜日)～8日(日)

会 場 黒崎ギャラリー

入 館 数 12月6日(金):29人
12月7日(土):62人
12月8日(日):61人

概 要 日韓合同学生設計コンペの作品、JIA会員の作品、活動を展示して、一般市民の方々に見ていた我々の活動に理解をいただけるようにした。



■ 提案作品(発表順)

1 釜山大学A(最優秀賞)

学 校 名 : PUSAN University

担当教授 : Yoo, Jae-Woo

参 加 者 : Kang, Eun-Jung

Park, Ha-Eun

Park, Seong-Bae

Park, Ha-Eun

Lee, Yeon-Ju



テ ー マ : 念願、月になる

漁師が漁を終えて無事戻ることを祈願した海雲台の月見。それと建築がどのように一体とできるかを計画した。

計画は浜辺への道と浜辺の2つをメインとする。

浜辺へと続く道では人々が用意された布に願いを書き、それを切って通り道を形成する。

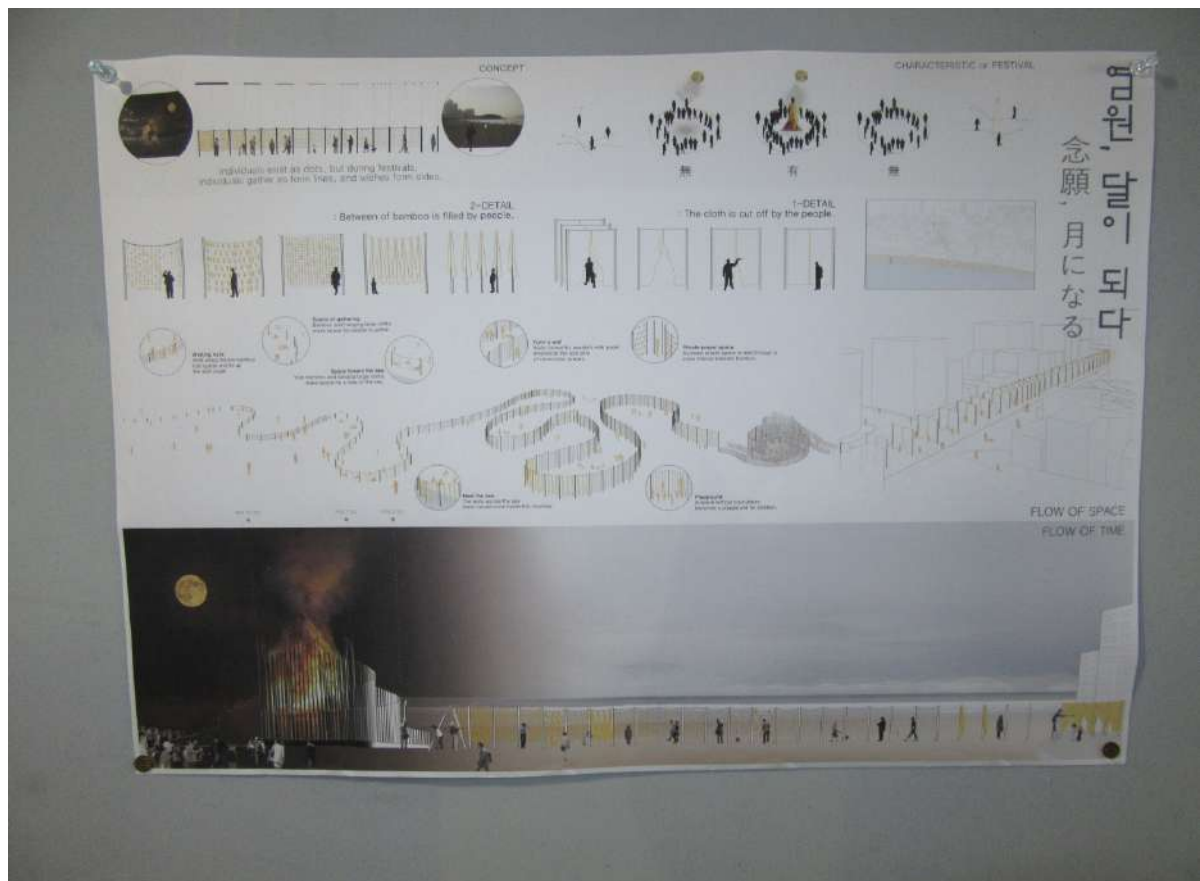
浜辺では竹棒に飾られる切られた布が点となり、徐々に線、面へとなって現れていく。

中心部では伝統的なステージが行われ、ステージが終わると、中心部に願い事の布が装飾された竹棒が運ばれる。

その後、塔状に組み立てられたそれを燃やして炎をつくる。

最後に炎の煙が、願いとともに満月へと届いていく。

人々はこの計画により、集まり、そして、また散らばっていく。



■ 提案作品(発表順)

2 釜山大学B(佳作)

学 校 名 : PUSAN University
 担当教授 : Yoo, Jae-Woo
 参 加 者 : Gim, Min-Kyung
 Bae, Da-Hye
 Lee, Jae-Min
 Jung, Kyu-Young
 Cho, Han-Seul
 Joo, Eun-Hee



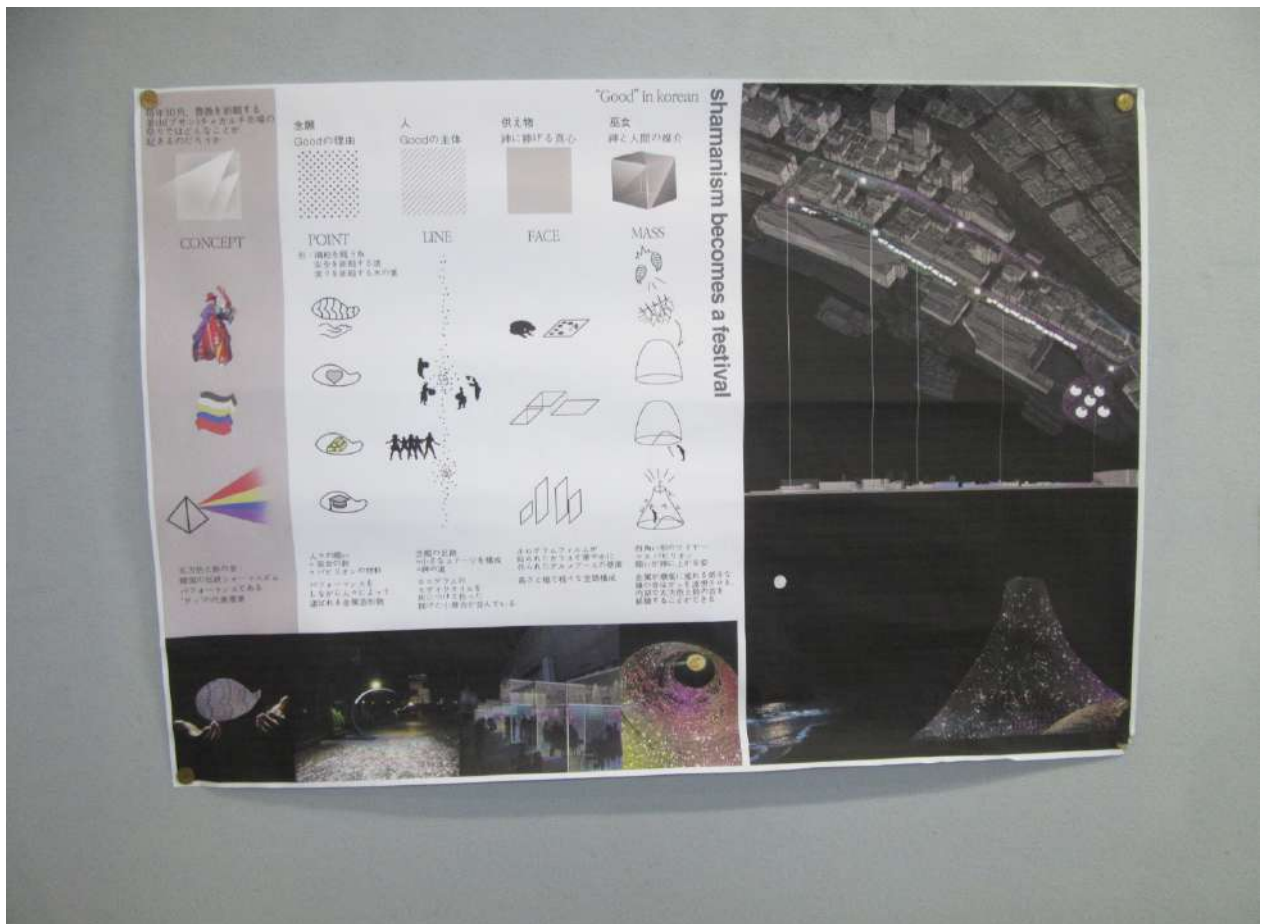
テ ー マ : シャーマニズム、祭りとなれ

村の人々の幸せと調和を祈る伝統的な「よき慣わし」が、建築を介して、現代人にとっての祭りとなる。

建築の中でキーワードは、色、念願、人、供え物、巫女であり、光→点→線→面→立体へと代わるものである。

伝統にのっつた街路コースを次のような展開で形成していく。

五方色は伝統シャーマニズムパフォーマンスの「よき慣わし」の代表要素。パフォーマンスしながら人々によって運ばれる金属造形物。ホログラムのモザイクタイルを床に貼りつけて作った開けた小舞台がならび、ホログラムフィルムが貼られたガラスで飾られ、組み立てられたブース。四角い形のワーヤーマスパビリオンでは巫女が奏でられる音楽とともに伝統的なパフォーマンスを行う。そして、クライマックスとして、月夜に照らし出された鮮やかな色どりの五方色をはじめ、装飾金属造形物で飾られた、それら全てが建築となった構造物が、満月の夜、神に祈る姿を現す。



■ 提案作品(発表順)

3 チームS・I(優秀賞)

学 校 名 : 九州工業大学
 担当教授 : 佐久間 治
 参 加 者 : 黒田 悠馬
 中上 雄太郎
 蓮尾 駿斗
 湊 拓真
 山本 彩雅



テ ー マ : 街に広がる光の笠 ～日常街中에서도戸畑祇園祭を感じられるような都市デザイン～

戸畑祇園大山笠が与える文化的価値をより、視覚的に、そしてより地域住民の活気につながるよう向上させることを目的とした設計主旨。大山笠の特徴である「変化する」部分や「提灯」のモチーフなど、そのデザインコードを建築に取り入れた。

大山笠のフレームの形を踏襲した屋根によって、建築的空間を作る。屋根は大山笠の形を反転させた吊り構造としているがこれは、反転させることで天井と人との距離が近くなり、日常から大山笠に存在を近く感じさせることを狙っている。空間内部の建具は、「提灯」をモチーフとした伸縮タイプとしている。自分たちで変化させることで、行為として、日常から大山笠を体感することを狙っている。

これらによって構成させる空間は、現在の空き地や駐車場に必要に応じて組み立てられ増殖していく。戸畑祇園大山笠本番の際は、観覧席や、組合場として利用されることはもちろん、日常は、住民の共用リビング、公園等としての利用を期待できる。

街に広がる光の笠
 日常の街中에서도戸畑祇園祭を感じられるような都市デザイン

01 戸畑祇園大山笠
 戸畑祇園祭の中心である大山笠の構造を分析し、その特徴を抽出する。特に「変化する」部分や「提灯」のモチーフを抽出し、建築デザインに活かす。

02 選定敷地
 戸畑祇園祭の中心地である敷地を選定し、その周辺環境を分析する。

03 設計主旨
 戸畑祇園祭の文化的価値をより、視覚的に、そしてより地域住民の活気につながるよう向上させることを目的とした設計主旨。

04-A 発想ダイアグラム：建具で空間を変化させる建築
 提灯のモチーフを建築空間に導入し、空間を変化させる。伸縮可能な建具によって、空間の広がりや高さを変化させる。

04-B 設計ダイアグラム
 建築空間の設計を詳細に示す。屋根の構造や内部のレイアウトを示す。

05 街に広がる光の笠 ～反転する建築～
 大山笠のフレームの形を踏襲した屋根によって、建築的空間を作る。屋根は大山笠の形を反転させた吊り構造としているがこれは、反転させることで天井と人との距離が近くなり、日常から大山笠に存在を近く感じさせることを狙っている。

■ 提案作品(発表順)

5 九州産業大学A

学 校 名 : 九州産業大学
 担当教授 : 矢作 昌生
 参 加 者 : 永田 智陽
 松田 湖都美
 吉永 広野
 福田 龍次



テ ー マ : 再編する都市

本来あった低い町家に高い山笠という構成が逆転し、山笠の荘厳さが失われた博多祇園山笠に着目した。建築を通して山笠と街並みをつなぎ未来の都市を再編していくことを考えた。敷地は、町家や高層の新しい建物が混在している追い山笠のコースである旧東町筋とした。時代とともに減少した町家と町家の間に生まれた余白の空間に、 commonspace を設けることで、日常では道から町家に人を引き込み、山笠の時は町家を道にひらくことを提案する。

岩下先生: 都市という言葉を使うと違和感がある。もう少しコンパクトな感じがあるので、博多は流れがいくつもある。そこをもう少しコンパクトな視点で話ができていると良かった。

尾道先生: 町家と町家の間の空間に着目したことは、おもしろかった。それを町全体とどう関わっていくかという時の提案が、建物と祭りとの関りを取り込むと、もう少しおもしろくなったと思う。

再編する都市

01. 博多祇園山笠

01-a. 山笠の概要

01-b. 山笠の変遷

01-c. 山笠と街並みの移り変わり (part 1)

02. 敷地

03. プログラム

04. プラン

■ 提案作品(発表順)

6 九州産業大学B(佳作)

学 校 名 : 九州産業大学
 担当教授 : 矢作 昌生
 参 加 者 : 井本 大智
 鋤田 絢子
 濱津 のぞみ
 関 太一



テ ー マ : 順応する祭

筑後川からの恩恵に感謝する「水の祭典久留米まつり」に注目し、敷地は福岡県久留米市六ツ門町とした。ここでは、後継者不足や祭りのメイン通りである明治通りは交通事故が多いという問題があった。都市のインフラは祭りのために作られるべきものだと考え、都市の象徴「ラウンドアバウト」と祭りの象徴「やぐら」を掛け合わせた建築を提案する。都市と祭りはともに変化し、そして順応しい今日に至っていると考える。1階では神輿が通過する門、2階ではそろばん踊りや花火を見ながらお酒を嗜める空間を提案する。

百田先生:交差点に着目したことは何か可能性がある。しかし、人の活動の核になると発見したので、この建築がどこにでも通用するようにと考えたことは、違うと思う。やりたい形を先に思い付いても良いが、それが具体的な問題とどう関係するかを考えていくと次の発見につながるし、どう変化していくかを見つけてほしい。

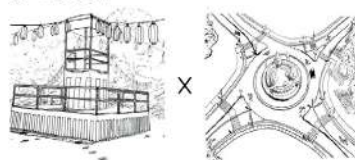


01 背景



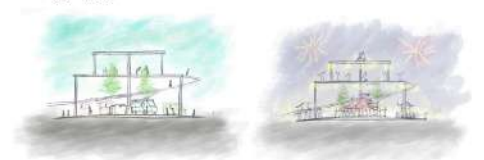
敷地となる福岡県久留米市六ツ門町にある祭「水の祭典久留米まつり」は、筑後川からの日ごころの恩恵に感謝することをテーマに現代まで受け継がれてきた。しかし、祭の後継者不足やメイン通りとなる明治通りは交通事故が多いことが課題視されている。

02 コンセプト



都市のインフラは祭のために作られるべきものだと考える。この建築は都市の象徴「ラウンドアバウト」と祭の象徴「やぐら」をかけたあわせものだ。都市と祭りはともに変化し、そして順応しい今日に至っているのではないだろうか。

03 形態



日常の一階では移動販売車が停まる場所や地域のワークショップが行われ、二階では近くで働いている人や地域の人々の休憩スペースや一階とは違ったワークショップが行われる。祭りの際には、一階では神輿が通過する門の様な役割がなされており、二階ではそろばん踊りを踊る人々の舞や花火を見ながらお酒を嗜むことができる。

■ 提案作品(発表順)

7 come on to the water

学校名 : The University Of Kitakyushu
 担当教授 : 福田 展淳
 参加者 : Andina Syafrina
 Wang Hsiang-Hsiu
 Zhu Xiaoyu
 Miranda Febliya Hanan



テーマ : Floating Festival

日本では、水が重要な意味を持っています。豊作と健康のために祈る浄化の象徴となっています。

夏の猛暑を克服するために、この水かけみこしは暑気払いのフェスティバルとなり、夏を楽しむ子供たちや人々を惹きつけるデザインです。この建物は次のようなアクティビティを提供します。

プールで泳いだり、噴水により水浴びを楽しんだり、花火の観覧席、フードスタンド、音楽やパフォーマンスなどです。

夏祭りなどがあるところへ移動させることができ、海辺に配置することで祭りの喧騒を離れ海辺を眺めるエスケープとすることもできます。

提案の水かけフェスティバルは伝統的なお祭りではなく、この建物の為に考えたフェスティバルです。

IDEA

- Pray for good harvests and health. Symbolizes the symbol purification.
- Overcome the blazing sun when entering the humid summer. Mizukake (water) is an environmental festival to ward off intense heat.
- Children to enjoy and play in the summer.

CONCEPT

The design proposed in attract people to play in the water directly in the summer. The design will be the permanent building and has the secondary function. The building can move to the another location in the sea.

The building provide some activity like swim in the sea and has water fountain, so the people can connecting to water directly. In the other day the activities can be attraction, food stand and music performance. The building look out towards the sea, opening visual escape to the natural elements.

STRUCTURE CONNECTION SYSTEM

- Roof truss connection system
- Knock down wall system

SPACE CHANGES SYSTEM

- Multi-Function Area
- Food Stand & Music Performance
- Exhibition
- Mizukake Water Festival

Other images in the collage include: 'Mizukake Water Festival' title, 'Mizukake Water Festival' subtitle, 'Water is important element in Japan', 'Mizukake Water Festival' main rendering, 'Mizukake Water Festival' site map, 'Mizukake Water Festival' architectural details, 'Mizukake Water Festival' night view, 'Mizukake Water Festival' food stand, 'Mizukake Water Festival' music performance, 'Mizukake Water Festival' fireworks, 'Mizukake Water Festival' fountain, 'Mizukake Water Festival' exhibition, 'Mizukake Water Festival' water fountain, 'Mizukake Water Festival' water fountain, 'Mizukake Water Festival' water fountain, 'Mizukake Water Festival' water fountain.

■ 提案作品(発表順)

8 近代A

学 校 名 : 近畿大学産業理工学部
 担当教授 : 益田 信也
 参 加 者 : 栗本 克洋
 坂田 卓彌
 東川 由香里
 中村 萌花



テ ー マ : 歓迎 ～まちと祭り～

愛知県津島市に伝わる津島神社の祭礼として行われる「尾張津島天王祭」を題材として、祭りの核となる施設を提案

祭り開催時は町の中心を流れる天王川で行われる周回コースに人が集中し、祭りの中心地である天王川公園には仮設のテントしかなく閑散とした状況であったが、常設の施設を作り観覧席ともなるオープンな施設とするとともに、日常的にはコミュニティの場となる構成とする。

形態的には祭りのシンボルである船をイメージし、内部空間はワンルームの開放的な構成とし祭りの紹介コーナーやラウンジ、日常的に利用されるカフェを設ける。



■ 提案作品(発表順)

9 近代B

学 校 名 : 近畿大学産業理工学部
 担当教授 : 益田 信也
 参 加 者 : 三牧 圭太
 島田 洸風
 安武 花穂



テ ー マ : 歓迎 ~まちと祭り~

町家街の中に「たまり場」を作りその場所を祭りの中心と捉えた提案。。

プレゼン資料も分かり易く描かれて良いものでしたが、少しインパクトがあればと感じた。

うだつを採用した点は面白いと思います。うだつと祭りの関係性、人との

関係性がもう少し具体的な提案があればもっと面白いプレゼンになったと思います。

町家と祭りの関係はとても面白い提案で、評価出来ると感じた。



■ 提案作品(発表順)

10 近代C

学 校 名 : 近畿大学産業理工学部
 担当教授 : 益田 信也
 参 加 者 : 金子 桂
 岩永 雅矢
 廣瀬 由希
 友安 歩乃香



テ ー マ : 木と樹

コンペテーマである祭りとして、「ながさきみなとまつり」を取り上げ、その祭りのメインである花火大会を眺める場所に木造の合掌造りの屋台道や休憩場でコミュニティを作る提案内容としました。

屋台道は「出島和蘭商館跡」との景観に配慮して、合掌造りとし、休憩所は祭りの時期以外での公園利用も考えて、人々が集まりやすい憩いの場としての活用も考慮した空間としました。

百田先生 : 今回の提案が祭り全体に対して、どういう意味があり、どういう繋がりができるのかを明確にしてほしい。
 今回のテーマとしては、地域に密着した歴史ある祭りに対して、建築が寄与できるものは何かという事を考えてほしかった。
 取り上げた「祭り」が近代の物であり、花火大会などイベント色の強いものを取り上げています。

近畿大学 チームC 廣瀬 友安 岩永 金子

木と樹

「ながさきみなとまつり」
 長崎の海上に集い、経済・文化の発展を願う祭り。2日間で合計1万発の花火が打ち上がる。『長崎ペーロン選手権大会』などの様々なイベントが行われる祭り。世界新三大夜間祭に認定された長崎と花火のコラボレーションもこの祭りの醍醐味となっている。

合掌造りの屋台道
 伝統には、文化遺産として「出島和蘭商館跡」がある。戦国時代の目録で唯一百年にわたる史料として日本の近代化を記録した回廊史跡である。これらの合掌造りは、祭りの中心地であり「木造の森公園」から200mのところを位置し、景観の調和を重視している。この建物の雰囲気と歴史を尊重しながら、現代に合わせた機能性を加え、水造の合掌造り屋台道を作ろうと考えた。

憩いの場
 「ながさきみなとまつり」に実際に足を運んでみて、大勢の人が集まる中に休憩所という名の小さなコミュニティを作ることの価値の歴史、文化の記憶、情報、交換を促進する場がある。祭りが行われていない時の本町の森公園は広い芝生の上に、シートを敷いたりシートを張りたりして、ピクニックを楽しむ人が見られる。これらの人々を集めるための憩いの場をこの案で考えている。

合掌造り
 幅=774 高さ=1000
 3x3の9つ並ぶ屋台の正面には合掌造りの中に内蔵的に設けられていて、人が手を繋ぐようにになっている。

立断面
 北側立断面
 北側立断面

■ 提案作品(発表順)

12 チームhERAt

学 校 名 : 日本文理大学

担当教授 : 菅 雅幸

参 加 者 : 柳田 健登

岡林 海叶

アルタンカー・チンゾリグ

趙 国艶

山田 ころこ



テ ー マ : 空に現れた光の轍

対象となる敷地は、大分市鶴崎地区で、当地区は加藤清正が建築した神社(法心寺)があり、清正公の命日にちなんだ法要行事(二十三夜祭)が行われています。しかし、それぞれの関わりが希薄に感じた学生達は、建築を通して問題点を解決する提案をしました。祭りの時の2つの拠点を「繋げる」と、「日常を豊かにする」と。

熊本城の部分をモチーフとしたボックスを組み合わせることで、様々なスペースや彩りを加えています。

日常では人々の休憩所として用いられたい、祭りのときは灯籠として明かりで賑わいをもたらすものを提案します。

(百田)参道に沿っておいてあるものですか。(学生)そうです。参道は祭りの時だけの空間としてでなく、日常にも利用できるものとしたい。(百田)武者返しの反転が、家の軒先を彷彿させる。その部分を広げても面白かった。

(尾道)ソフトを裏付けるような、具体的な提案が欲しかった。

空に現れた光の轍

建築も歴史を積み重ねて今が存続している。
 父の歴史に軌跡を振り返る時間が日常生活の中でとれなければならない。
 鶴崎の歴史を一つの主体にしたとき何が見えるものがある。
 五体を積み重ねることで歴史を再認識すると同時に明るい未来を創造できるだろう。
 祭りや街を繋ぎ、地域に付いた空間を継承する。

1. 敷地 鶴崎の背景
 鶴崎がいつから鶴崎町
 鶴崎町はいつから鶴崎町
 鶴崎町はいつから鶴崎町

2. 清正公二十三夜祭
 鶴崎町はいつから鶴崎町

3. 地域背景 歩行者天国に對しての法心寺
 (鶴崎+鶴崎) × 街
 鶴崎町はいつから鶴崎町

4. コンセプト
 五体で参道へ
 五体で参道へ
 五体で参道へ

5. ダイアグラム
 空間をどう使うか
 空間をどう使うか

6. 使用用途
 五体で参道へ
 五体で参道へ

7-a. 日常時の参道
 鶴崎町はいつから鶴崎町

7-b. お祭り時の参道
 鶴崎町はいつから鶴崎町

■ 提案作品(発表順)

13 QUT

学 校 名 : 北九州市立大学
 担当教授 : 福田 展淳
 参 加 者 : 张雨婷 ZHANG YUTING
 丁琪 DING QI
 李博文 LI BOWEN
 吕宗翰 LYU ZONGHAN



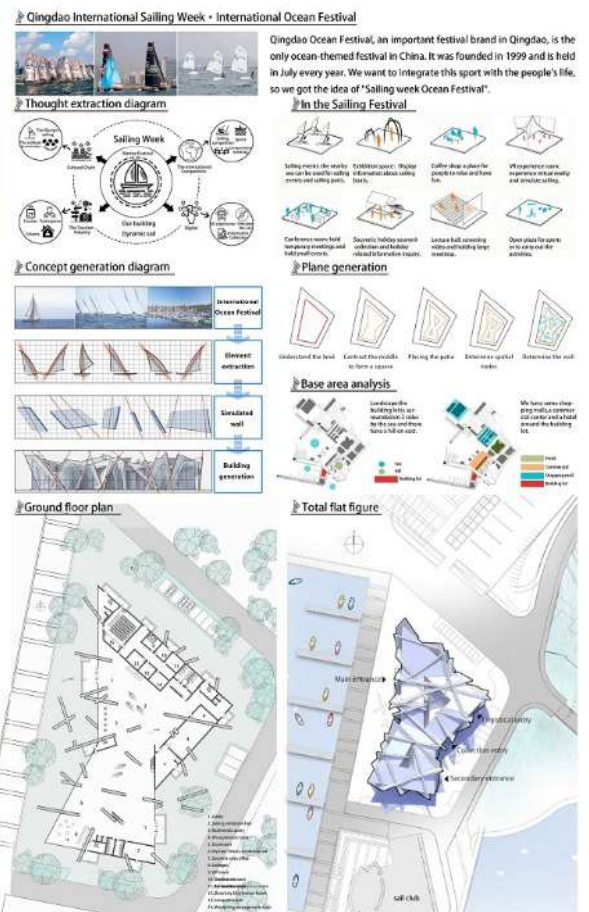
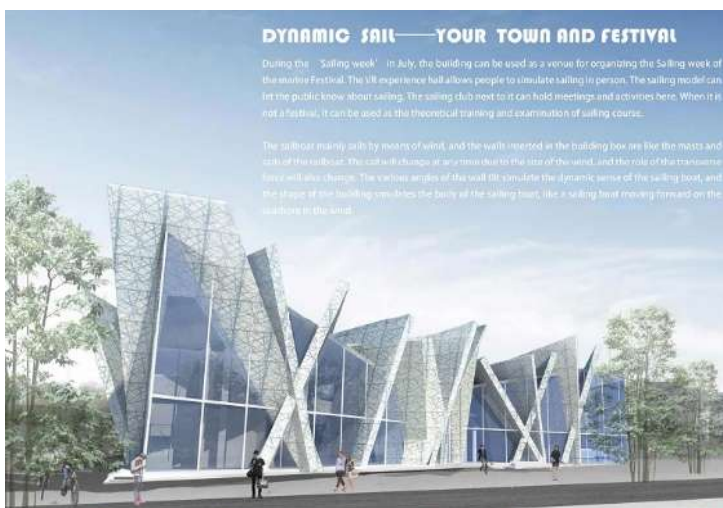
テ ー マ : DYNAMIC SAIL

中国の青島(チンタオ)は、7月のセーリング週間中、国際オーシャンフェスティバルが開催される。1999年に設立され、青島の重要な祭りになっている。

提案された建物は、そのオーシャンフェスティバルで使用される会場である。セーリングの模擬体験をするVP体験ホールや、一般人にセーリングを体験して理解してもらうセーリングモデル、会議やアクティビティを開催するセーリング倶楽部等で構成されます。フェスティバルの開催期間外の時は、セーリングの理論研修や試験会場等として利用されます。

建物のフォルムは、帆船をモデルとした。壁は風によって航行し、風の強さや向きによって様々に変化する、帆を表現している。壁の傾斜の多様な角度は、帆船の様々な動的な感覚をシミュレートし、建物の形状は、風の中で海辺を前進する帆船のボディをイメージ。

中国の青島理工からの3ヶ月交流生で構成されたチームで、美しい紙面構成もあり、華やかな印象を与える素晴らしい提案であった。



■ 提案作品(発表順)

14 FU

学 校 名 : 北九州市立大学
 担当教授 : 福田 展淳
 参 加 者 : 余海铭 YU HAIMING
 王程捷 WANG CHENGJIE
 Rayyan Faried Saadeldien Label



テ ー マ : RE:BIRTH

提案する建物は、スーダンの首都であるハルツームで、青ナイル河と白ナイル河が交わる場所にあります。ここは、土地、空気、水を融合させ、この場所の精神的な価値を高めています。

提案する建物は、これらを翻訳する複合的機能を持ち、イスラム教の預言者の誕生のための祭りの場、図書館、アートギャラリー、瞑想茶屋、公園、港等である。

この建物の柔軟性とオープンスペースは、地元市場として活用し、灰色の空間は、新しい社交の中心となる事によって、この地域に持続可能な経済を維持する健全な手段を提供する場所として貢献する。

スーダンと中国の学生で構成されたチームが、日本に来て、日本と韓国の合同建築コンペを英語でプレゼンテーションを行うという今回の事業の国際性を一番反映した発表だったと思う。



■ 提案作品(発表順)

15 K.F Team

学 校 名 : The University of Kitakyushu
 担当教授 : Weijun Gao
 参 加 者 : WANG TAN
 YANG ZHIJUN
 HE XINCHENG
 ZHU RUNLANG



テ ー マ : 「あなたの街と祭り」

北九州大学Eチームの「あなたの街と祭り」をテーマにした建築コンペ案である祭り(Fair)について、分析を綿密かつ具体的に行う必要がある。北九州大学Eチームの提案する「花市」は祭りの要素が希薄である。何のために「花市」が催されるのか、人々と「花市」の関係性等に焦点を当て説明することが出来なければ「祭り」とは認識できない。北九州大学Eチームは大都市での「フラワーフェア」を都心部交差点にペDESTリアンデッキを建築し開催する提案である。都心部交差点にペDESTリアンデッキを建築し「フラワーフェア」を開催する発想は完成をみればパワフルな感じを想像できるが、現実性に乏しく稚拙さをぬぐい切れない。課題である「祭り」は文化・伝統であり、人々が継承するに値するものであることである。今回の課題で観覧したいと思う提案はその土地に息づく長閑で郷愁を誘うようなものでそこに息づいていそうな「建築」である。

Flower Fair Air Green Island



Project Overview

In order to enable people to come to the scenic area dominated by Huacheng square from the main commercial area during the Spring Festival, this project designs a large air green island at the intersection of Huangpu Avenue and Huacheng square. The green island has a huge passage area, which can realize the combination of the Flower Fair and traffic footpath on the green island. The project adopts the rapid human flow transportation system to realize the rapid transportation of the passing human flow, which can meet the demand of Flower Fair for the site and the goal of connecting the two main areas. On weekdays, the air Green Island, as the connection point between the commercial area and the tourist area, will also play an important role.

Designed By F.K.TEAM



Flower Fair (花市) is a traditional cultural activity unique to people in Guangzhou during the Spring Festival. It usually starts several days before the Spring Festival till the mid-night of the New Year's Eve.

The fair is held at the selected streets of each district. The streets will then be restricted for pedestrians only.

When the Flower Fair is held, many traffic hubs are in a state of impassability, which affects the traffic in this area.

After the Guangzhou Asian Games, the new central axis of Guangzhou City, Huacheng square, has been basically completed.

However, due to the separation of Huacheng square and the pedestrian footpath area of Tianhe District, the main business district, by Huangpu Avenue, the large-scale Flower Fair held in Huacheng square has not been able to undertake the main task of people flow.



■ 提案作品(発表順)

16 東西大学(佳作)

学 校 名 : Dongseo University

担当教授 : Oh, Kie-Whan

参 加 者 : JOO, Hyo-Joon

EUM, Soungcho

KIM, Ji Hun

KIM, Ji Su

REMIGO, Jonah

KANG, Dong Hun



テ ー マ : 縁結びの祭りの橋 (Festival Bridge Connecting Nidana)

釜山で開催される大規模な花火大会は深刻な交通渋滞を引き起こし、地元にとっては歓迎される祭りとはなっていない現状がある。

そこで、交通手段としてしか使用されていない、広安大橋の下部に歩行散策路を新設し、花火を反対側からも見れるようにするとともに、巡廻路として人の集中を緩和し、地元の人達も参加しやすいよう提案する。また、通路もスロープ・階段等のアクセントを随所に投入する事により、日常から遊びも含めたアクションのある空間として成立する。

この空間で沢山の人が出会い、縁が広がっていく事を期待していく。

・講評

百田: 人の多い状況を建築で如何に解決するか? というスケールの大きい提案は良い。

また、花火を反対側からみるという単純な提案も共感できる。

岩下: 多くの人が集まる空間として、たくさんの他者との縁が生まれるという発想なのか?

400mのストラクチャー整備という事で、お金がかかりそう。

